

浜田地区更生保護

浜田市・石見豊ヶ浦 杉田雅弘保護司撮影

第12号

令和2年7月1日発行
浜田地区保護司会
事務局：浜田市松原町240番地2
TEL. 0855-25-5345

日頃から当センターの運営にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
社会を明るくする運動は、全ての国民が、犯罪や非行の防止と、過ちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動として、今年で七十回の節目を迎えます。これもひとえに更生保護に携わる皆様方の御尽力の賜物と敬意を表する次第です。
この運動が目指す目標の一つは、犯罪や非行に至った人を再犯防止に向けて支えることあります。が、当センターにおきましても、再犯防止のための各種の処遇プログラムや職業安定所と連携した就労支援等の社会復帰支援などの充実強化に努め



第七十回「社会を明るくする運動」に寄せて

島根あさひ社会復帰促進センター
センター長 大串 建

ています。
近年、全国的に高齢者や病弱者など、釈放時に何らかの保護的処置を必要とする受刑者が増加する傾向にあることを考慮しますと、この運動の目的を達成するためには、施設内における関係部課間の連携はもとより、更生保護に携わっておられる皆様方を始め、関係機関との連携の強化が必要不可欠なものと考えております。施設内における矯正処遇の後には、社会内処遇への円滑でシームレスな移行に繋げるべく努力しますので、皆様の御力添えをお願い申し上げます。
最後に、新しい感染症への不安が増す日々であります。が、皆様方の御健康と御活躍、またこの運動の成功を心から祈念しております。



更生保護関連団体との連携について

浜田地区保護司会会長 杉田雅弘

平素より地域の皆様方には、更生保護活動をはじめ浜田地区保護司会に対し、格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
昨年十一月、鳥根県立大学BBSサークルが内閣府特命担当大臣から「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」を受賞。そして、第六十九回社会を明るくする運動作文コンテストで、浜田市立三階小学校六年の山本彩永さんが最優秀賞の法務大臣賞を受賞。(三ページに掲載) 本当におめでとございます。
さて、新型コロナウイルスは地球規模で襲いかかり、瞬く間に全世界にまん延し、感染拡大防止に係る「3密」は、これまでの社会生活からは常識を覆す取り組みです。各種会合、行事も中止、延期となり浜田地区保護司会も総会を開催することができませんでした。この紙面をお借りし、本

年度取り組む重点項目を記させていただきます。
第一に更生保護関連団体(更生保護女性会・BBS会・協力雇用主会)との連携事業の推進。また浜田市、島根あさひ社会復帰促進センターで進めておられる「出所者の社会復帰支援に係る勉強会」、更に、浜田市主導の「再犯防止に関する関係機関打ち合わせ会」には積極的に連携を図って行きたいと思っております。第二に保護司確保重点地区指定(松江保護観察所)を受け、保護司確保に取り組んで参りますが、地域の皆様のご協力をお願いする次第です。
終わりに、刑法犯の認知件数は、平成十年代半ばから減少に転じ、半減していることは本当に喜ばしいことです。今回のコロナ禍による社会不安が最小限であつてほしいと願わずにはいられません。

第七十回「社会を明るくする運動」が実施されます

七月は「社会を明るくする運動」

強調月間・再犯防止啓発月間です。

すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くため、「社会を明るくする運動」(犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ)を推進します。



更生保護制度施行七十周年を記念して

第二十四回島根県更生保護大会が開催される

昭和二十四年に犯罪者予防更生法が制定されて、新たな国家の制度としての更生保護制度が成立したとされています。

制度施行七十周年を迎えた昨年十月七日(月)には、東京国際フォーラムにおいて記念の全国大会が天皇后両陛下御臨席の下、被表彰保護司の方々など約五千人におよぶ関係者が一堂に会し、盛大に開催されました。

この全国大会を受けて、鳥根県においても昨年十一月二十一日(木)大田市のサンレディー大田において県内の更生保護関係者約五百人が参集し、記念の大会が開催されました。浜田地区からも保護司三十五名のほか更生保護女性会やBBS会の皆さんも多数参加されました。

午前中は「銀山あゆみ太鼓」の演奏に続き、石見銀山資料館仲野義文館長の記念講演が行われました。そして、午後からの式典においては、永年にわたる更生保護事業に功績のあった

三百六十三名の方々が表彰され、浜田地区保護司会からも二十一名の保護司が表彰されました。更生保護制度が施行されて七十周年のこれら記念大会に際し、「犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、犯罪予防のための世論の啓発に努めること」をその使命とする保護司の立場に、改めて身の引き締まる思いをしたところでした。



功労者表彰の様子



銀山あゆみ太鼓の演奏

浜田市、江津市へ 再犯防止推進計画策定要望活動実施!

再犯防止推進計画とは国民が犯罪による被害を受けることを防止し、安全で安心して暮らせる社会の実現を図るため、政府が取り組む再犯防止に関する計画のことです。

平成二十八年十二月、再犯防止推進法が成立し、国・地方公共団体・民間が一体となった取組が重要であるとされました。

こうした施策を促進するため、浜田地区保護司会と松江保護観察所が連携して、浜田市と江津市へ再犯防止推進計画策定の要望活動を行いました。

一月十七日(金)午前十時から江津市を訪問し藤田副市長、小川社会福祉課長らが出席され、保護司会からは穂坂松江保護観察所長、杉田浜田地区会長、盆子原江津分区長などから江津市の再犯防止策定に向けて要望書を手渡しました。

また同日、午後二時から浜田市役所において近重副市長、前木健康福祉部長、井上地域福祉課長が出席され、保護司会側からは穂坂松江保護観察所長、杉田浜田地区会長、服部浜田分区長らから同様の要望を行いました。

今回の要望について浜田市、江津市では、再犯防止推進計画策定は重要であることを踏まえ、今後、県や他市の状況も見ながら策定に向けて前向きに進めるとの回答をいただきました。

そして、今後の具体的な取組みについては保護司会と連携しながら進めていくことが確認されました。



江津市への要望



浜田市への要望



第六十九回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 小学生の部 法務大臣賞（最優秀賞） 誰もが必要とされる社会を目指して

浜田市立三階小学校 六年 山本 彩 永

最近、多くの人を傷つけた犯人が自ら命を絶つという事件が起きました。テレビやインターネットなどでは、犯人について「死にたいなら人を巻き込まずに死ぬべきだ」「死ぬのなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。」などといった意見が多く見られました。私は、この事件の報道を見て、とても悲しくなりました。同時に怒りの気持ちもわき上がりました。そして、大切な家族や友達が殺されてしまったらと考えたら、犯人は一人で死ぬべきだと思いました。

しかし、私とはちがう考えをもっている人がいました。それは、NPO法人代表の方で、その人は、「死にたいなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。」と言うのはやめよう。このような言葉を受けとった、犯人と同じ思いをもつ人は、社会は何もしてくれないという思いを募らせるのかもしれない。社会はあなたを大事にしているし、何かできるのかもしれない。社会はあなたの言葉を軽視していないし、死んでほしいと思っている人間など一人もいない、という強いメッセージを発信していくべきだと思う。」という事を言われていました。

犯罪を起こしてしまう人は、「自分は社会に必要な人間だ。」「自分の味方などだれもいない。」と思っているのではないだろうか。私は考えます。そのような思いが心の中にとんとんたまっていくって、悲しくて、苦しくて、もうどうしようもなくなっていくって、その気持ちが社会に対

する「怒り」に変わっていった結果、犯罪を起こす気持ちになってしまふのだと思います。

そして、その犯罪を起こしてしまった人にも家族がいます。ただでさえ自分の身内が犯罪を起こしてしまったことでショックを感じていると思うし、「犯罪者の家族」として世間から見られるだけで、その後の生活は苦勞の絶えないものになっていくのだろうと考えられます。そんな中で、「一人で死ねばいい。」などといった報道を目にすることは、想像を絶するくらい辛いことなのだと思います。

自分は社会に必要な、と思っている人がいるのなら、そういう人たちが少しでも社会の中で自分が誰かのために役に立っているという喜びを実感できる仕組みができればいいと思います。今、小学生である私には、大きなことはできません。私にできることは何だろうか。いろいろ考えてみました。一つは自分から進んであいさつをすることだと思いました。私たちの地域では、登校時間、「見守り隊」と呼ばれる人たちが、主に交通量の多い横断歩道で交通指導をしてくださっています。自分からあいさつをすることで、とても喜んでくれました。あいさつを通して、「人とつながる喜び」を感じました。あいさつのあふれる地域を実現することで、だれもが地域の一員としての所属感をもつことができるのだと思います。また、私は学校で、六年生として昼休みに下学年と一緒に遊ぶ活動をしてきました。お昼の放送

で呼びかけると、たくさんの方が集まってくれて、一緒に楽しくおにごっこやケイドロをして楽しみました。「またやりたい！楽しかったよ！ありがとう。」と言ってくれた一年生は、とても嬉しそうでした。こうした自分の活動によって、「学校に来てよかった。」という誰かの喜びをつくることのできたことは、とても意味のあることだと思つたので、これからも続けていきたいと思っています。他にも、私はクラブ活動や委員会活動でリーダーをしています。このように、わたしは学校の中に自分の役割があり、学校の役に立っているという実感をもっています。人の役に立つということとは、私の大きな喜びとなっています。

「死にたいなら人を巻き込まずに自分だけ死ぬべき。」「死ぬのなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。」といった意見は、被害者のことを考えると、気持ちはずごく分かるし、そのような気持ちになるのは当たり前のような気がします。しかし、本来の意味で社会全体から犯罪を減らしていくために、「この社会の中で必要とされていない人なんて誰もいない。」ということをもみんなで考えていくことが大切だと思えます。この言葉を胸に、私はこれから自分から人を大切にできる人間として生きていきたいです。



社会を明るくする運動 保護司会(分区)の活動

江津分区

- 毎年、社明運動強調月間の初日の7月1日(月)、江津分区保護司会では、江津更生保護女性会、江津警察署の協力を得て朝7時からJR江津駅前で通勤、通学生徒、児童を対象に街頭啓発活動を行っています。



- 社明運動推進委員会は午後1時30分から江津市推進委員長の下山修江津市長をはじめ、関係者60名が出席し、盆子原民生江津分区長から安倍内閣総理大臣のメッセージを朗読し市長へ伝達しました。



- 江津分区で初めての取組として、7月16日(木)午前7時過ぎから各中学校で行う「おはよう！」キャンペーン終了後、各中学校にお伺いし校長先生、教頭先生や担当教諭との懇談会を開催しました。各中学校の様子や夏休みの計画などの話と保護司会の活動状況などを紹介し意義ある情報交換ができました。



- 江津分区では長年、市内中学校から社会を明るくする運動にちなみ標語作品を募集しており、厳正な審査を経て優秀な作品を表彰しております。昨年は10月4日(金)、市役所において開催し、山下修江津市長及び盆子原民生江津分区長からそれぞれ賞状と記念品が贈られました。



浜田分区



メッセージ
伝達式
(浜田市役所)
R17.1



街頭広報活動
(ゆめタウン浜田)
R17.1

青少年健全育成
ソフトボール大会
(原井小学校)
R18.11



いきいき子供神楽
(ゆめタウン浜田)
R18.16

更生保護3団体
合同研修会
(ジョイプラザ)
R22.11



し、継続していく予定であります。

特色のある活動に取り組んでいます。

分区分区では、公民館とともに小学校高学年を対象とした二泊三日の通学合宿のお手伝いを県立大学生の協力も得て取り組んでいます。また、金城班においても、自治会と共催のもと夏休み期間中に、「社明・アニメ映画上映会」を十六年間におよび実施しています。いずれの取組みも青少年の健全な育成のためにも重要な活動であり、今後も地域の皆様方と協力し、継続していく予定であります。

那賀分区

昨年度は那賀分区自主研修の一環として県外矯正施設の参観研修を実施しました。那賀分区の保護司や更生保護女性会の皆さんなど計十八名の参加を得て岐阜刑務所を参観しました。

岐阜刑務所は、無期刑や執行刑十年以上の犯罪傾向の進んだ者及び執行刑十年未満でも犯罪傾向が進んだ者を収容する男性刑務所で、収容定員は八百九十名です。施設内で二列になって説明を受ける際は各自にイヤホンが貸し出しされ、後方においても十分話の内容が理解できました。また、刑務官のやりがいについて、「一人の受刑者を更生させられたら、何倍もの後日の犯罪が減る」と熱く語られた



SST自主研修会開催

SSTとはSocial Skills Training(ソーシャルスキルズ トレーニング)のことです。

この研修は保護司が対象者との対人面接や行動能力の向上を目的として、「考え方」と「行動」を学習し、面接力を高める実践的な研修会です。

これは令和元年度、日本更生保護協会の助成事業として公募され、県下では浜田地区のみの開催となりました。開催日は十一月八日(金)、浜田市総合福祉センターにおいて、講師として岡山県慈恵病院の臨床心理士で、SST普及協会認定講師の西山圭一氏をお招きし、「面接力をつけよう」保護観察対象者と信頼関係を築くために」をテーマに「褒める」をキーワードにお話を伺いました。

保護司会から二十九名が参加し、それぞれグループに分かれて講師先生から具体的なテーマや事例により討議しその後グループ発表を行い、更に質問時間を設け、終始熱心に取り組みました。

研修後の受

講者からのアンケートでも、今後の対象者との面接において大変参考になった、またこの次も是非開催して欲しいなど大変有意義な研修会となりました。



SST 研修会風景

更生保護三者連携研修

令和元年十一月一日、十日の両日更生保護三者連携研修が浜田市旭町で開催されました。一日は浜田市役所旭支所で検討協議を行い、十日は旭ふる里祭りの会場(旭町市民体育館)に松江保護観察所のブースを設け広報活動を実施しました。広報PR用品の配布と併せ特別企画として小学生を対象とした「ホゴちゃん」のストラップづくり(プラバン)の体験コーナーを設置し、保護司が体験希望者の呼び込み、更生保護女性会、BBS会が体験希望者の対応する段取りで実施。先着五十名の予定に対し、最初は人が集まるか心配でしたが、結果予定を上回る希望者が集まり丁寧に断りする大盛況でした。特に親子連れの参加者について子供がプラバンを作成している間、保護者に更生保護の広報活動が出来たことは良かったです。



三者連携プラバンづくり

更生保護功勞により次の方々が受賞されました。おめでとうございます。

令和元年度 島根県更生保護功勞受賞者(敬称略)

◆法務大臣表彰

清水 靖之(浜田) 齋藤奈美子(那賀) 後藤 直樹(那賀)

◆全国保護司連盟理事長表彰

(保護司) 江木 修二(浜田)

◆中国地方更生保護委員会委員長表彰

豊田 統夫(江津) 平田 雅子(浜田) 中田 嘉明(浜田)
神山 哲夫(江津) 賀戸 重幸(那賀)

◆中国地方保護司連盟会長表彰

福岡 徹雄(江津)

◆松江保護観察所長表彰

齋藤 實(那賀) 後山 博美(浜田) 野藤 薫(浜田)
小川ひとみ(浜田)

◆島根県保護司会連合会会長表彰

服部 裕之(那賀) 田中 稔夫(那賀) 小松原博子(浜田)
後藤 敏雄(浜田) 鍛治恵巳子(江津) 小松 良成(那賀)

◆島根県推進委員会委員長賞(一位)

浜田市立三階小学校 六年 山本 彩水
題名「誰もが必要とされる社会を目指して」
中央審査会推薦作品として法務大臣賞(最優秀賞)

◆中学生の部

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞
江津市立江東中学校 三年 細木 彩花
題名「事件をおこさないためには」

◆山陰中央新報社賞

江津市立江津中学校 三年 松浦 美菜
題名「つながりのはじまり」

令和元年度「社会を明るくする運動」
作文コンテスト 県審査会入賞者

浜田地区保護司会

保護司数75名(R.2.6.1現在)

組織図

理事 小川 泰昭 (浜田) 松本喜久恵 (那賀) 水口 清子 (浜田) 王子 幸子 (那賀) 花田 和代 (浜田) 賀戸 重幸 (那賀) 服部 孝之 (浜田) 岩崎 敏 (那賀) 江木 修二 (浜田) 金本 晶 (那賀) 浦田 明彦 (浜田) 岡本 正博 (那賀) 岩永 孝吉 (浜田) 藤田 厚 (江津) 竹山 勝彦 (浜田) 三上 良紀 (江津) 平田 雅子 (浜田) 盆子原民生 (江津) 中田 嘉明 (浜田) 永妻 壽則 (江津) 岡本 正友 (浜田) 三瀧 香順 (江津) 後山 博美 (浜田) 村川 立美 (江津) 杉田 雅弘 (那賀) 豊田 統夫 (江津) 寺沢 法順 (那賀)	会長 杉田 雅弘 (那賀分区長)	副会長 盆子原民生 (江津分区長) 服部 孝之 (浜田分区長)	監事 齋藤奈美子 (那賀) 和原 勝博 (江津) 三明 昌子 (浜田)
	常任理事 永妻 壽則 (江津分区事務局長) 事務局長 サポートセンター・企画調整保護司 センター長 後山 博美 (浜田分区事務局長) 会計 サポートセンター・企画調整保護司 事業 岡本 正博 (那賀分区事務局長) 広報		

浜田分区会員 野上 雄護 小川 泰昭 水口 清子 花田 和代 服部 孝之 三 明 濱本 義基 清水 靖 瓦田 富子 江木 修二 浦田 明彦 森 隆 牛尾 充 岩永 孝吉	竹山 勝彦 平田 雅子 中田 嘉明 新田 哲朗 岡本 正友 澁谷 幹雄 福田 幸夫 藤浪 遊薫 野藤 ひとみ 小川 博美 後山 敏雄 小松原 博子 島田 義仁 林 俊行 長野 昭三	浅津 伸行 尾崎 靖記 村武 まゆみ 坂東 朋子 螺山 郁繁 * * * 35(定員 38)	那賀分区会員 杉田 雅弘 齋藤 奈美子 寺沢 法順 松本 喜久恵	佐々木 美雪 王子 幸子 賀戸 重幸 岩崎 敏美 橋本 節晶 金本 正博 岡本 實 齋藤 稔夫 田中 裕之 服部 良成 小松 知行 山崎 實 花田 義雄 山田 秀昭 岡本 洋子 若菜	沖田 將文 * 21(定員 22)	江津分区会員 山根 英毅 藤上 厚 三代 良紀 藤代 雅充 盆子原 民生 永妻 壽則 三瀧 香順 村上 博行 村川 立美 和原 勝博	豊田 統夫 神山 哲夫 福間 徹雄 千代延 尚子 福富 孝男 富金 原晴江 門 屋臣 鍛治 恵巳 島田 修二 * 19(定員 20)
---	--	--	---	--	-------------------------	---	--

保護司の異動 令和元年七月一日から 令和二年六月三十日まで

- ◆新任されました
- 若菜 洋子 (那賀) 令和元年十二月一日付
- 沖田 將文 (那賀) 令和元年十二月一日付
- 螺山 郁繁 (浜田) 平成二十九年六月一日付

- ◆退任されました
- 鹽谷 法顕 (那賀) 令和元年十一月三十日付
- 沖野 邦男 (浜田) 令和元年十一月三十日付
- 後藤 直樹 (那賀) 令和元年十一月三十日付
- 河野 宣子 (那賀) 令和元年十一月三十日付
- 牛尾 絹子 (江津) 令和二年五月三十一日付

永年にわたり更生保護事業にご尽力いただき誠にありがとうございました。

編集後記

広報第十二号の発行にあたり、島根あさひ社会復帰促進センター大串建センター長様には、ご多用にもかかわらず玉稿を賜り誠にありがとうございました。今や世界中「新型コロナウイルス」という得体の知れない病原体による感染拡大により混乱を極めております。各種会合やイベントの中止、延期がなされる中、浜田地区保護司会においても、総会は書面表決により実施し、今年度のスタートを切りました。

七月は「社会を明るくする運動」強調月間及び再犯防止啓発月間です。このような状況下ではありますが、行政や更生保護関係機関と協議・連携しながら活動して参りますので、引き続きご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

編集委員 岡本 正博
後山 博美
永妻 壽則

